

令和 4 年救助統計

北見地区消防組合

目次

1	救助業務の概要・救助出動の状況	… P 1
2	地区別救助事案発生件数	… P 2 ～ 3
3	救助活動の状況（活動時間推移）	… P 4
4	医師要請及びドクターカー・ヘリ要請の状況	… P 5
5	救出された要救助者の傷病程度	… P 6
6	交通事故の出動状況	… P 7
7	水難事故の出動状況	… P 8
8	風水害等自然災害の出動状況	… P 9
9	機械による事故の出動状況	… P 10
10	建物等による事故の出動状況	… P 11
11	ガス及び酸欠事故の出動状況	… P 12
12	その他の事故の出動状況	… P 13

1 救助業務の概要

救助業務とは、火災、交通事故、水難事故及び地域の特殊性に応じた自然災害などから、生命、身体の危険を排除する一連の活動であり、迅速かつ安全確実な対応が求められる。

北見地区消防組合は、石北峠からオホーツク海沿岸まで東西110km、面積2145.63㎡と広大な管轄エリアを有しており、このような地域実情に合わせ、各車両に配備されている救助資機材で救助業務に対応している。

また、近年は北海道胆振東部地震、伊豆山土砂災害（熱海土石流）、九州北部豪雨など、複雑多様化、広域化する災害が各地で発生しており、いつどのような災害が発生しても対応できる救助体制の強化を目的に、令和2年4月1日に特別救助隊を発隊し、併せて地域実情に合わせた初動体制強化を図るため救助工作車を更新した。

救助出動の状況（出動件数、救助人数の推移）

北見地区消防組合の救助出動件数は135件で、前年と比較して23件増加しており、救助人数67人で前年と比較して7人の増加となっている。

（図1－1）

図1－1 救助件数及び救助人数の推移



2 地区別救助事案発生件数

令和4年中の救助出動件数は135件。前年と比較し23件増加している。
(表2-1) (表2-2)

建物による事故が47.5%、交通事故が37.0%を占め、次にガス酸欠事故が5.9%、水難事故と機械による事故が3.0%、その他の事故が2.2%、火災(建物)1.5%となっている。(図2-1)

表2-1 構成市町別救助事案発生件数

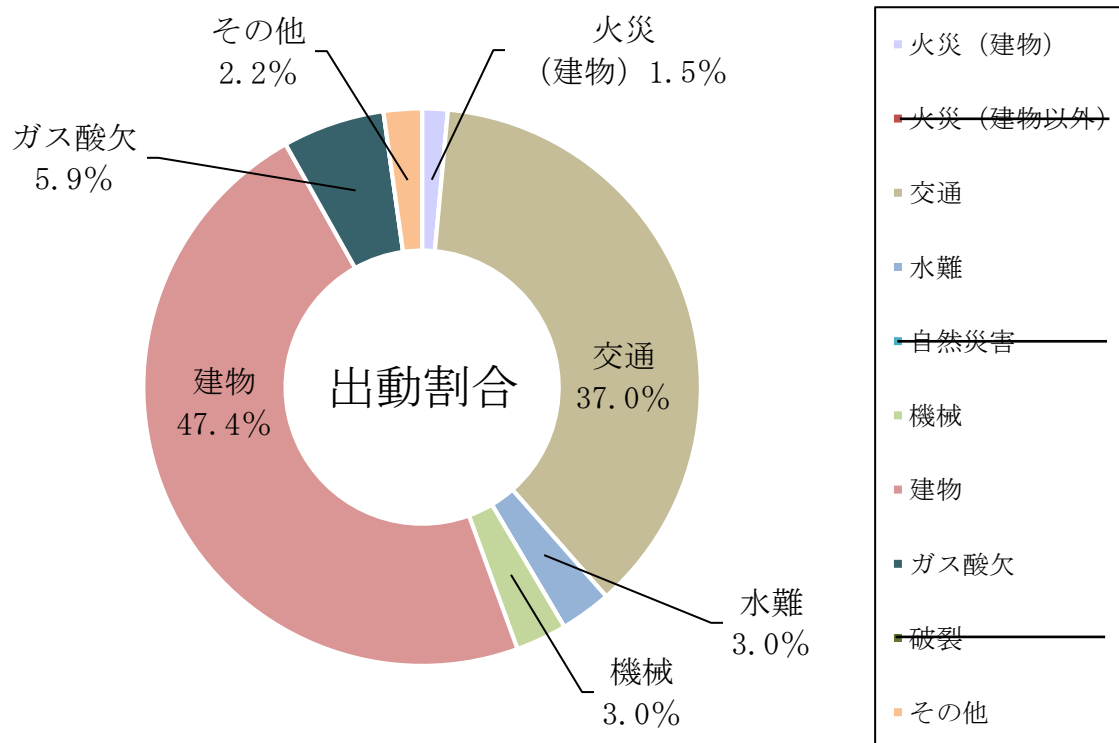
事故種別 構成市町別		火 災		交 通	水 難	災自 害然	機 械	建 物	酸ガ 欠ス	破 裂	そ の 他	計
		建物	建物 以外									
合 計	出動件数	2		50	4		4	64	8		3	135
	増減数	△1		10	3		△3	8	5		1	23
	活動件数	2		35	3		2	39	6		2	89
	増減数			9	3		△3	4	5		1	19
	救助人数	2		37	2		2	20	2		2	67
	増減数			7	2		△3	△1	1		1	7
北 見 市	出動件数	2		43	3		4	63	7		1	123
	増減数	△1		6	2		△2	9	4		△1	17
	活動件数	2		30	2		2	39	5			80
	増減数			6	2		△3	6	4		△1	14
	救助人数	2		33	1		2	20	2			60
	増減数			6	1		△3		1		△1	4
戸 訓 子 府 管 外	出動件数			2	1				1		2	6
	増減数				1			△1	1		2	3
	活動件数			2	1				1		2	6
	増減数				1			△1	1		2	3
	救助人数			2	1						2	5
	増減数			△1	1			△1			2	1
戸 訓 子 府 管 外	出動件数			5				1				6
	増減数			4			△1					3
	活動件数			3								3
	増減数			3				△1				2
	救助人数			2								2
	増減数			2								2
戸 訓 子 府 管 外	出動件数											
	増減数											
	活動件数											
	増減数											
	救助人数											
	増減数											

※組合内の出動件数につき、管外の出動は合計に含めないものとする。

表 2 - 2 北見市自治区別救助事案発生件数

事故種別 自治区別		火 災		交	水	災自	機	建	酸ガ	破	そ	計
		建物	建物以外	通	難	害然	械	物	欠ス	裂	他	
北見	出動件数	2		35	2		4	55	7		1	106
	活動件数	2		25	1		2	33	5			68
	救助人数	2		28	1		2	16	2			51
端野	出動件数			4	1			2				7
	活動件数			3	1			1				5
	救助人数			3								3
常呂	出動件数			2								2
	活動件数			1								1
	救助人数			1								1
留辺蘂	出動件数			2				6				8
	活動件数			1				5				6
	救助人数			1				4				5

図 2 - 1 事故種別出動割合



3 救助活動の状況（活動時間推移）

令和4年中の救助出動件数135件中、救助活動有りの件数は72件。前年と比較し2件増加している。現場到着の平均時間は5.9分（最先着隊の到着、救急隊含む）、救出時間は平均8.2分を要した。（図3-1）（図3-2）

図3-1 現場到着平均時間割合

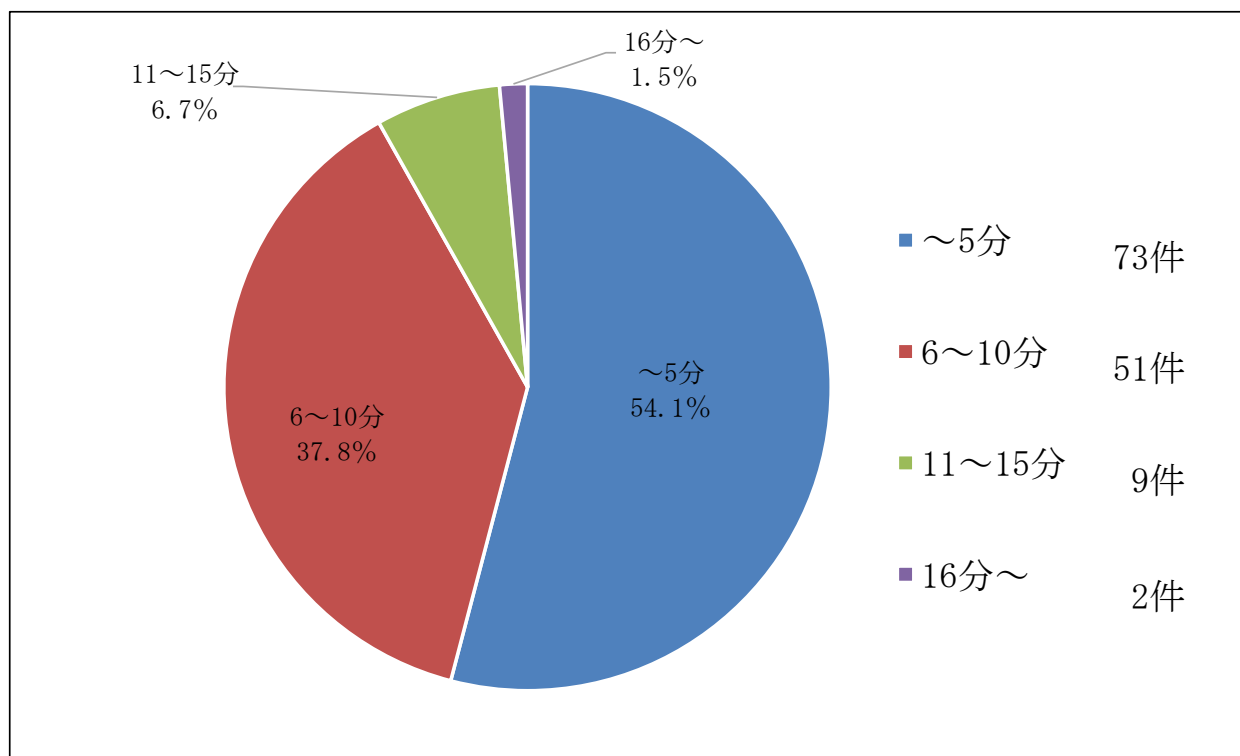
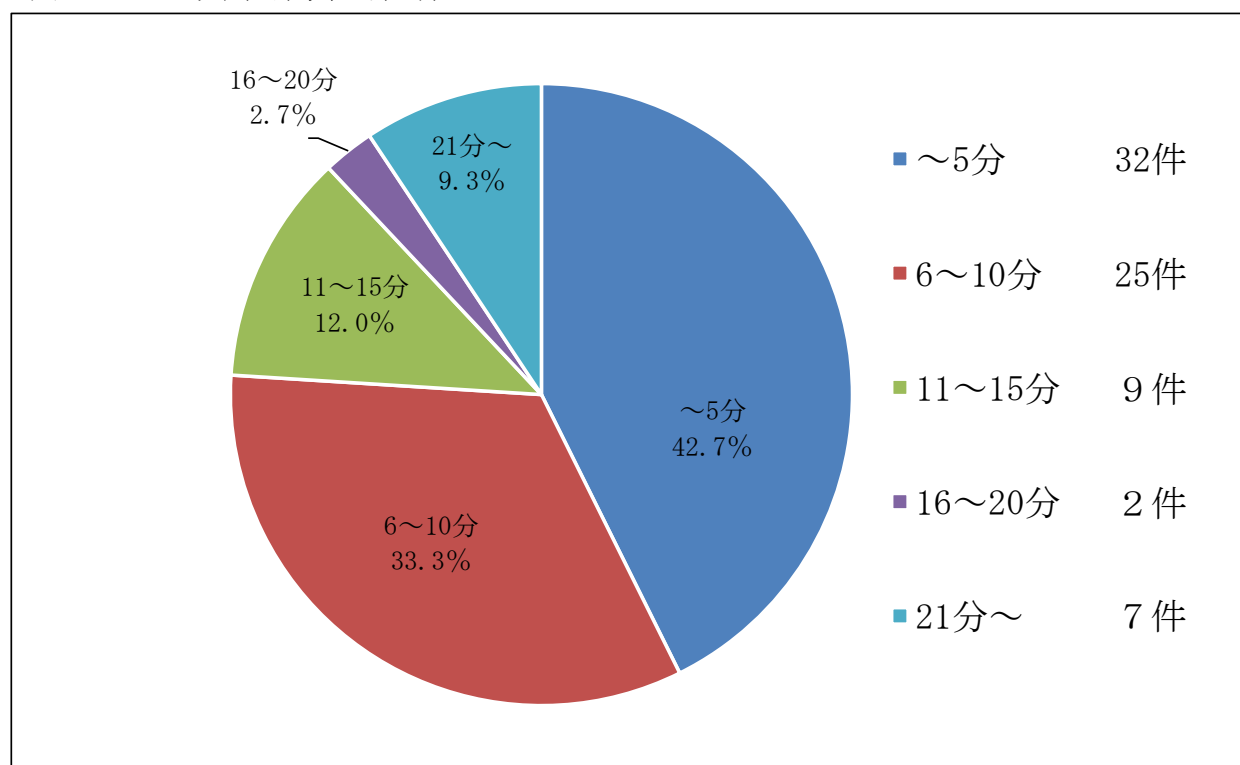


図3-2 救出時間平均割合



4 医師要請及びドクターカー・ヘリ要請の状況

令和4年中の救助出動事案に関わるドクターカー要請は4件。ドクターヘリ要請は0件。要救助者をいち早く医師の管理下におくため、天候や地理的な条件を考慮して早期にドクターカー又はドクターヘリを要請する必要がある。（図4－1）

なお、医師搬送はドクターカーであった。

ドクターカー要請回数及び医師搬送回数（表4－1）、ドクターヘリ要請回数及び搬送回数（表4－2）、防災ヘリ要請回数及び搬送回数（表4－3）は、下表のとおりである。

図4－1 救助事案に関わる医師要請状況

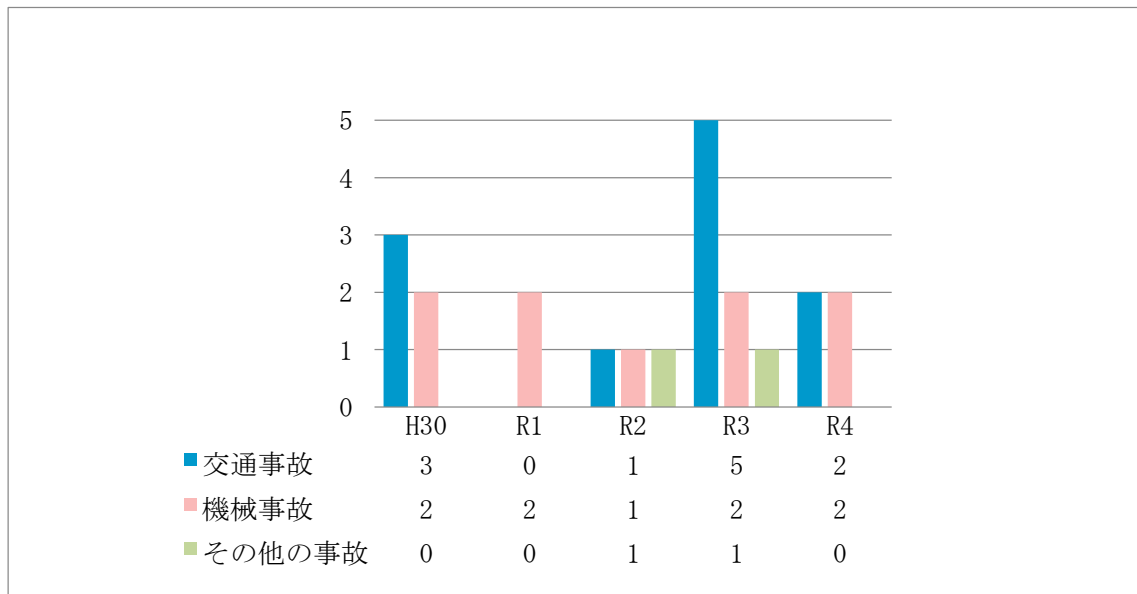


表4－1 Dr. カー要請回数及び医師搬送回数

	H30	R1	R2	R3	R4
Dr. カー要請回数	5	2	3	7	4
医師搬送回数	4	1	1	6	2

表4－2 Dr. ヘリ要請回数及び搬送回数

	H30	R1	R2	R3	R4
Dr. ヘリ要請回数	1	0	2	1	0
Dr. ヘリ搬送回数	0	0	0	1	0

表4－3 防災ヘリ要請回数及び搬送回数

	H30	R1	R2	R3	R4
防災ヘリ要請回数	0	0	0	0	0
防災ヘリ搬送回数	0	0	0	0	0

5 救出された要救助者の傷病程度

令和4年中の救出された要救助者は67人、交通事故55.1%、建物等による事故29.9%で、全体の85%を占めている。（図5－1）

死亡、重症、中等症の傷病者の割合の合計は約4割、入院加療を必要としない軽症者は約6割となっている。（表5－1）

図5－1 災害別要救助者数割合

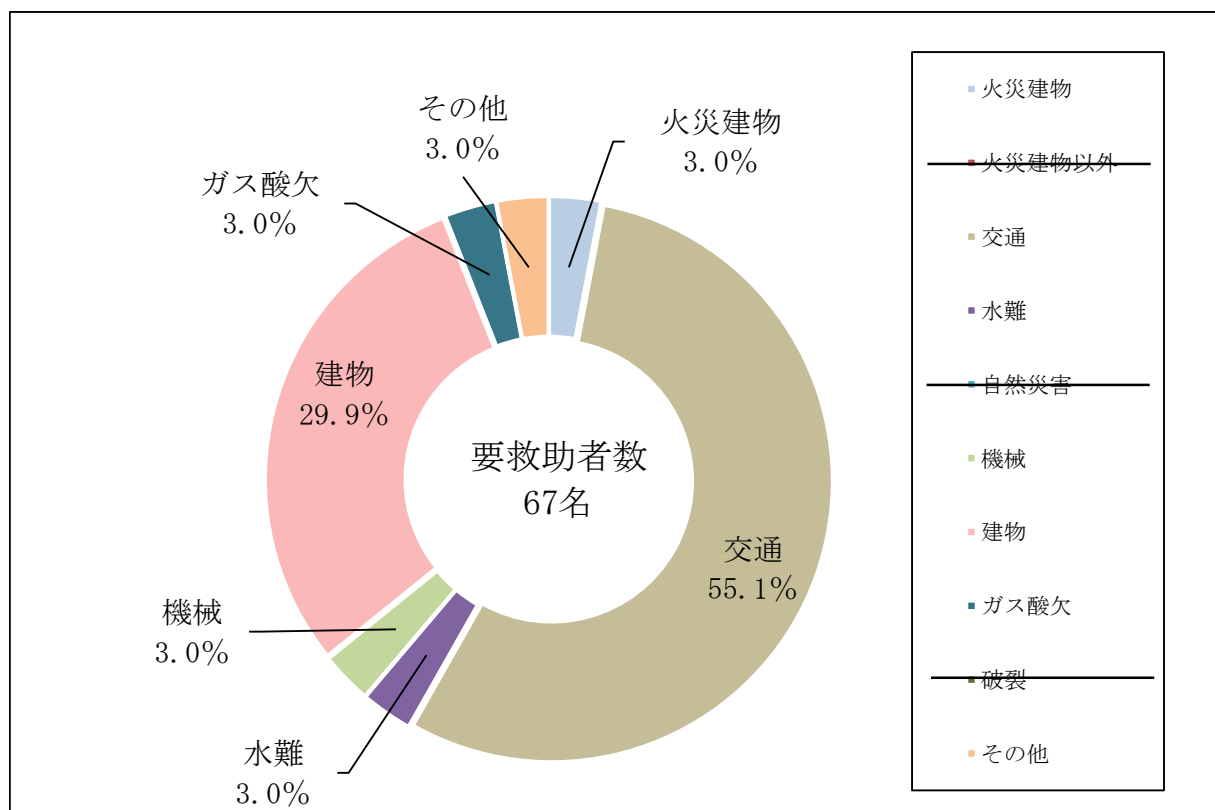


表5－1 災害別傷病程度

	死亡	重症	中等症	軽症	無し	合計
火災建物			1		1	2
火災建物以外						0
交通	1	5	10	17	4	37
水難	1				1	2
自然災害						0
機械			1	1		2
建物		2	6	5	7	20
ガス酸欠		1	1			2
破裂						0
その他				1	1	2
	2	8	19	24	14	67

死 亡…初診時において死亡が確認されたもの。

重 症…傷病の程度が3週間の入院加療を必要とするもの。

中等症…傷病者の程度が重傷又は軽症以外のもの。

軽 症…傷病の程度が入院加療を必要としないもの。

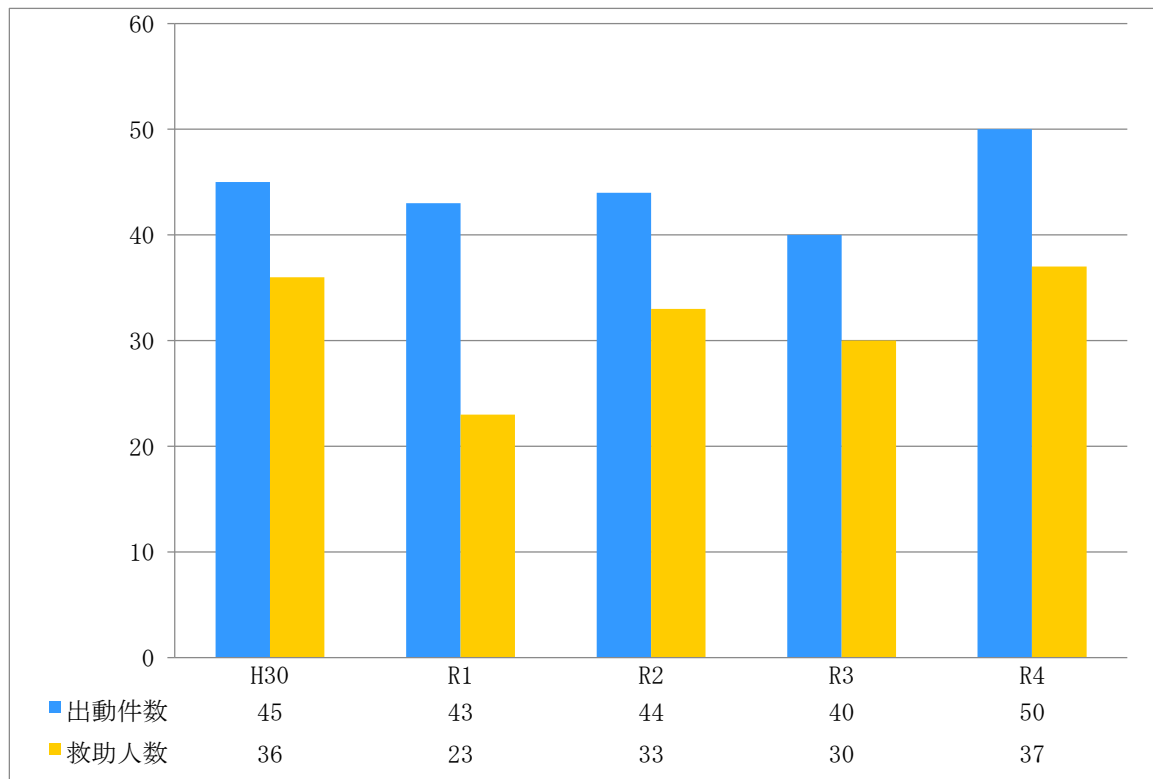
無 し…負傷無し、不搬送含む。

6 交通事故の出動状況

令和3年中の交通事故による救助出動は50件で、前年と比較して10件増加している。また、救助人数は37人で前年と比較し7人増加している。（図6－1）

交通事故とは、すべての交通機関相互の衝突及び接触又は単独事故若しくは歩行者等が交通機関に接触したことなどによる事故をいう。

図6－1 交通事故の出動状況及び救助人数



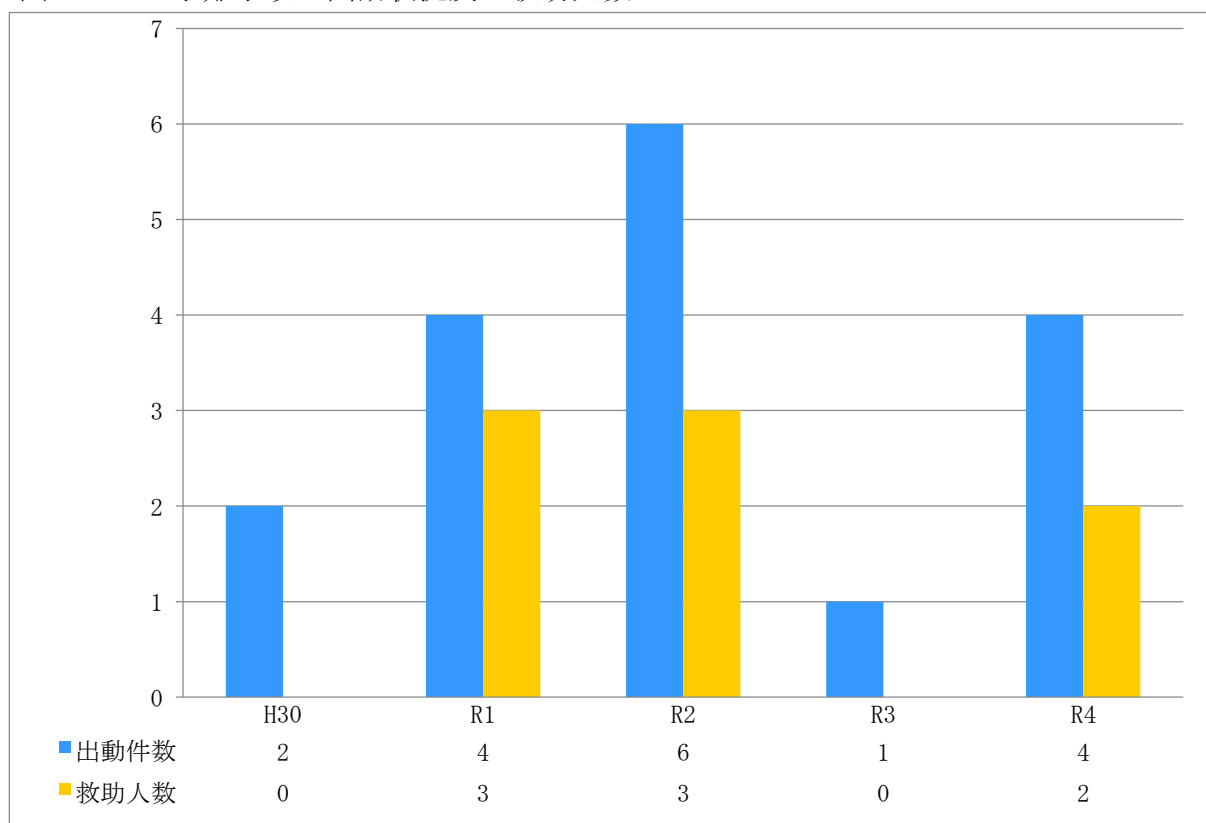
7 水難事故の出動状況

令和4年中の水難事故は4件で、前年と比較すると3件増加し、救助人数は2人で2人増加している。（図7－1）

水難救助業務は、平成30年4月1日より水難救助隊から消防署救助課へ移管し、救助工作車による即時出動を可能とした水難救助体制となった。これにより、当消防組合の管轄区域内における水難救助事故対応は、救助隊、消防隊、救急隊及び指揮隊による対応となる。

水難事故とは、水泳中の溺者又は、水中転落等による事故をいう。

図7－1 水難事故の出動状況及び救助人数



8 風水害等自然災害の出動状況

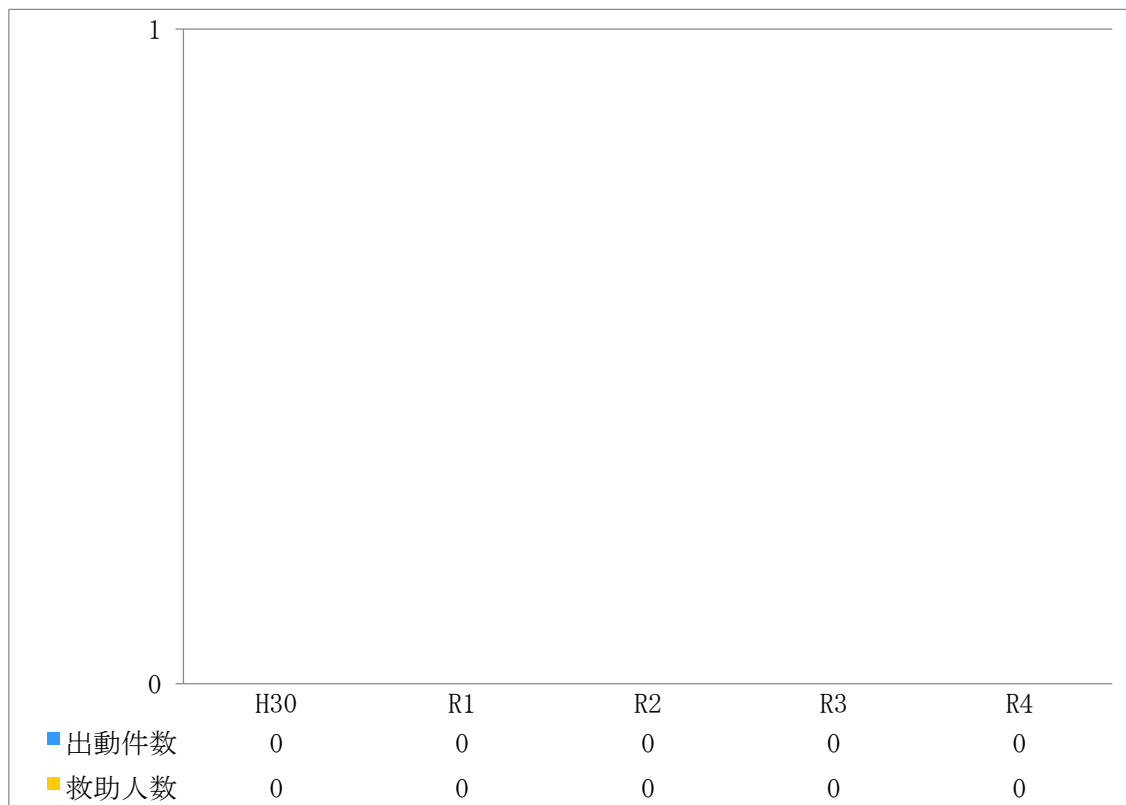
令和4年中の自然災害事故は0件であり、救助出動はなかった。

(図8-1)

平成28年8月に1週間で3つの台風が北海道に上陸し、当消防組合でも9件出動した以来、風水害等自然災害の救助出動は過去5年発生していない。

風水害等自然災害事故とは、暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火、雪崩、地滑り、その他の異常な自然現象に起因する災害による事故をいう。

図8-1 自然災害救助の出動状況及び救助人数

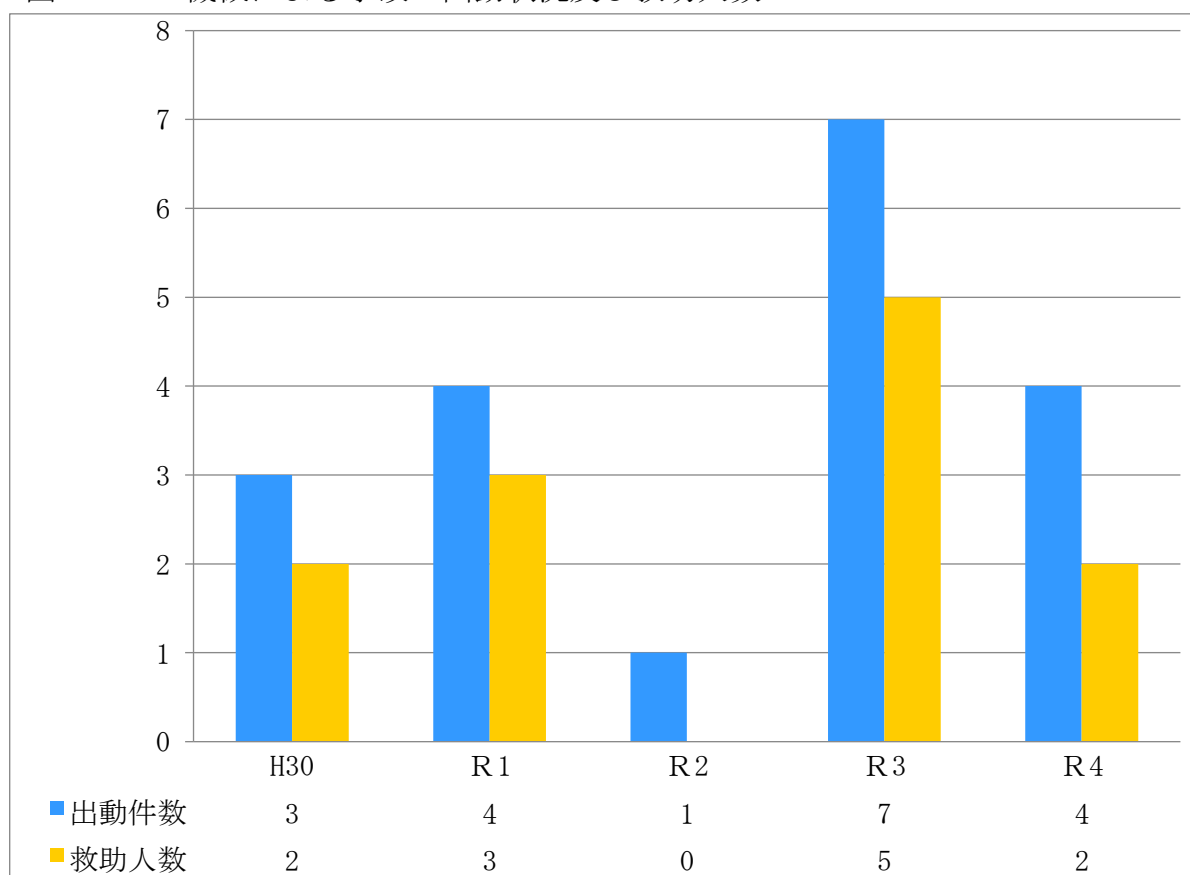


9 機械による事故の出動状況

令和3年中の機械による事故は4件で、前年と比較すると3件減少し、救助人数は2人で3人減少している。（図9－1）

機械による事故とは、エレベーター、エスカレーター、農業用機械、プレス機械、塵芥収集車、ベルトコンベアーその他の建設機械、工作機械等による事故をいう。

図9－1 機械による事故の出動状況及び救助人数

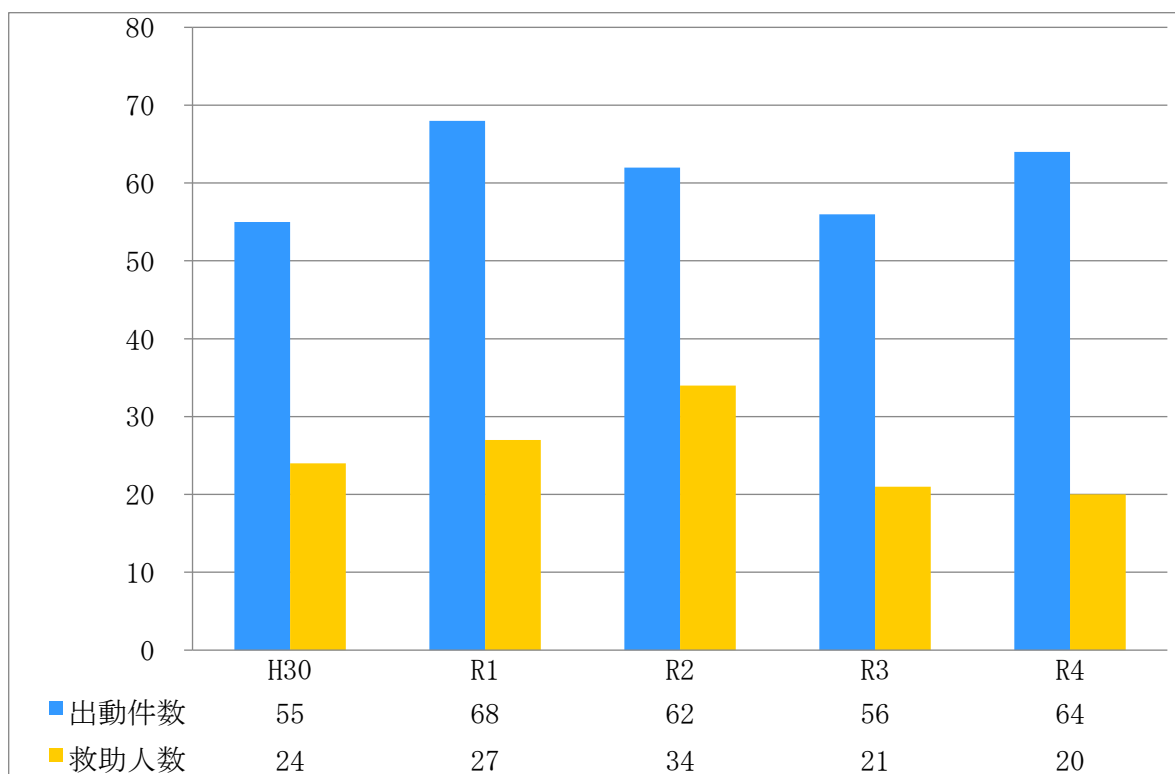


10 建物等による事故の出動状況

令和3年中の建物等による事故は64件で、前年と比較すると8件増加し、救助人数は20人で1人減少している。（図10－1）

建物等による事故とは、建物、門、柵、塀等建物に付帯する施設又はこれらに類する工作物の倒壊による事故、建物等内に閉じ込められる事故、建物等に挟まれる事故などをいう。

図10－1 建物等による事故の出動状況及び救助人数



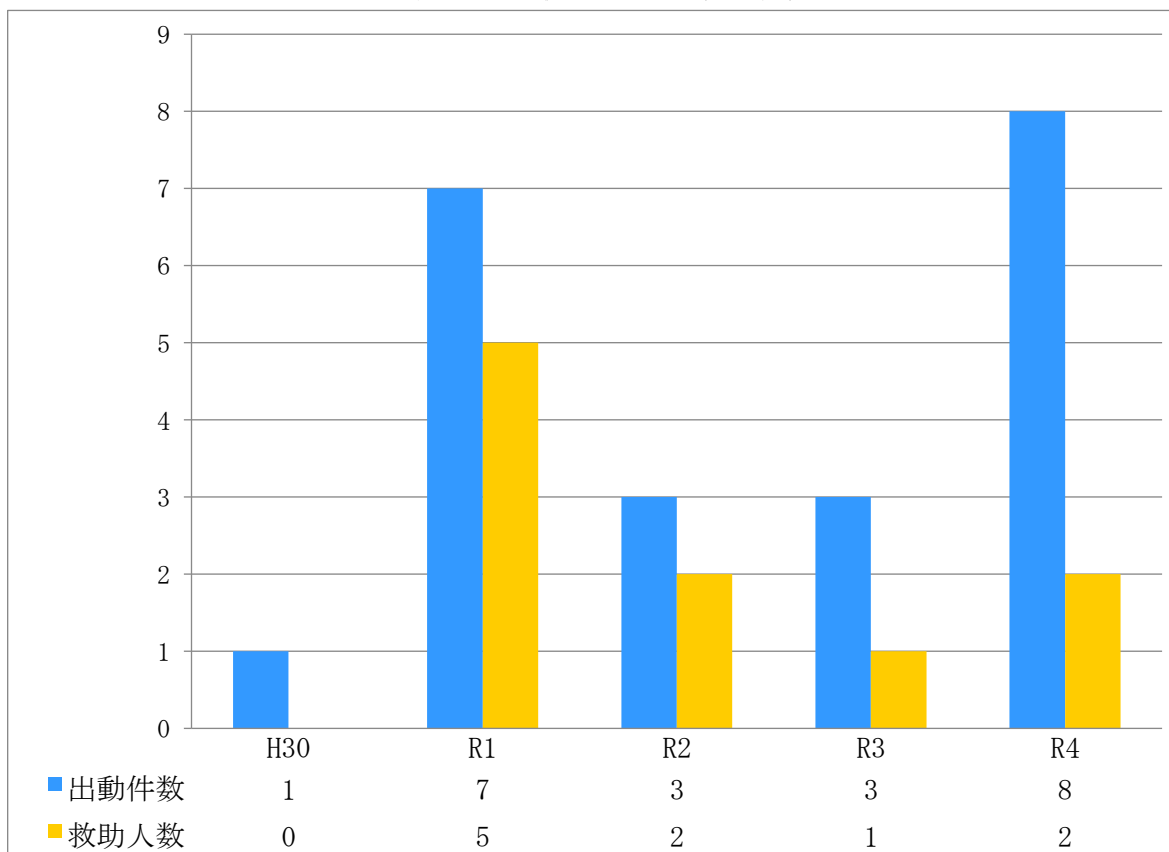
11 ガス及び酸欠事故の出動状況

令和4年中のガス及び酸欠事故は8件で、前年と比較すると5件増加し、救助人数は2人で1人増加している。（図11－1）

ガス及び酸欠事故とは、一酸化炭素中毒その他のガス中毒事故、酸素欠乏による事故をいう。

※車両、建物内の練炭等による事故も含まれている。

図11－1 ガス及び酸欠事故の出動状況及び救助人員



12 その他の事故の出動状況

令和4年中のその他の事故は3件で、前年と比較すると1件増加し、救助人数は2人で1人増加している。（図12－1）

その他の事故とは、交通事故、水難事故、機械による事故、建物等による事故、ガス及び酸欠事故、破裂事故に掲げる事故以外の事故で、消防機関による救助を必要としたものをいう。

図12－1 その他の事故の出動状況及び救助人数

